

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	保育園夢未来錦糸町園
施設所在地	東京都墨田区太平3-3-12 アドバンス喜月ビル1階
法人名	株式会社 我喜大笑

1. 活動のテーマ

<テーマ>

粗大運動

<テーマの設定理由>

当園はワンフロアで、階段や段差がない。0歳児の成長が豊かなこの年に、様々な体の動かし方を経験することで発達の援助につなげたいと感じた。室内で粗大運動を通して体を動かして遊ぶ中で体の動かし方を伝える為。

2. 活動スケジュール

- ①9月3日 トンネルを這ってくぐる、歩いてくぐる
- ②10月15日 マットの上を歩く、這う
- ③3月5日 マットの斜面を登る、滑る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・広い空間・マット・クッション材・パーテーション

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①トンネルの存在に気付き近づく。保育士がトンネルを這ってくぐる様子を見て興味をもち這ってくぐったり、歩いてくぐったりする。
- ②マットの上を歩いたり、這ったりすることで床ではないところで歩く、這う経験をする。
- ③マットの斜面を這って登ったり、斜面をすべったりすることで体を動かす。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①トンネルを見つけた子ども達は興味津々で近づくものの、すぐにはトンネルに触れたり、くぐったりはしなかった。保育士が這ってトンネルをくぐり、出口から子どもを呼ぶと保育士の真似をして這ってトンネルをくぐっていた。トンネルの途中で止まり立ち上がったたり、天井を触ったりする子もいた。トンネルをくぐることで這う経験を多くすることができた。また、マットの感触が気になって触る子もいたので、次はマットの上を歩いてみようというねらいも立った。
- ②マットを広げるとすぐに気づき乗る姿が見られた。始めは歩いたり、這ったりしていたが、保育士がマットの上で寝転がると真似をして寝転がる姿も見られた。マットの下に布団を入れデコボコな道を作ると、「あれ?」「あらー」とまっすぐに歩けないことを身体で感じていた。何度も繰り返すうちに子ども自身がバランスを取りながら歩いたり、這う姿が見られ、楽しんで身体を動かしていた。
- ③マットの斜面を登り降りした。マットで子どもの腰くらいの高さの斜面を作ると、すぐに興味をもち子ども達が近づいてきた。這って登ろうとするが足がうまく上がらずに登れない子も多く、登る途中で下までズルズルと滑り落ちていた。保育士がお尻を支えると斜面を登りきることができていた。また、何度か登るうちに体の使い方を知り一人で登れるようになる子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

様々な粗大運動を通して、子ども達の体の使い方が徐々に上手になっていることを実感した。始めは歩行にふらつきがあった子も次第に安定してきて這う経験が体幹を鍛えているのだと感じた。また、斜面を登る経験が戸外へ行った時に遊具の段差や階段を登ることへの意欲にも繋がり、保育士に支えられながらも登りきることができるようになってきたので、体の使い方を粗大運動をすることで知ることができて良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	保育園夢未来錦糸町園
施設所在地	東京都墨田区太平3-3-12 アドバンス喜月ビル1階
法人名	株式会社 我喜大笑

1. 活動のテーマ

<テーマ>

水

<テーマの設定理由>

日常生活の中で深い関わりがある水。園生活の中でも手を洗ったり、水遊びをしたり等、様々な場面で触れる事が多いので水をテーマとして設定した。

2. 活動スケジュール

- ① 8月19日 水の音や感触を知る。
- ② 9月 4日 水の温かさや冷たさを感じる。
- ③ 9月 9日・10月 2日 液体以外の水の形状を知り、触る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・タライ・圧縮袋・氷・製氷皿・水遊び用玩具

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 水遊び中に水が流れる様子や音が感じられる玩具を使い、音や水に触れた時の感触を知る。
- ② ぬるま湯と少量の氷を入れて冷やした水をそれぞれ圧縮袋に入れ、その上に座ったり寝転がったりして温かさや冷たさを感じる。
- ③ 氷に触れ、冷たさや形の変化を感じる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

①水に手をつけて「パシャパシャ」と音を楽しむ子が多かった。また玩具を使って水が流れる様子を見ながら「クルクルしてる」と保育士に伝えたり、入り口部分の幅が異なる筒状の玩具ではの上下向きを変えながら「(水が) いっぱいだね、ちょっとだね」と流れる水の量の違いに気づいたりする子の姿が見られた。

②2種類の水に興味津々の様子が見られた。温かい圧縮袋には、「ゴロンする」と友だちを誘って一緒に圧縮袋の上に乗ったり寝転がったりしていた。「気持ちいい」「ポカポカだね」と保育士と楽しそうに会話をしていた。冷たい圧縮袋の方には溶けきっていない氷が浮いており、「これなあに？」と保育士に聞いたり、保育士と一緒に氷を握ったりする姿が見られた。「つめたい！」と驚いた表情の子や、プカプカ浮いている氷をじっと見つめる子の姿が見られた。

③前回の氷の体験に興味を持った子が多く、保育士が園児の前でタライに氷を入れると「おーっ！」と楽しそうな歓声が上がっていた。大きさや形が様々な氷を使った事もあり、溶ける速さも違い「こっち大きい」「もう(氷)ないね」と保育士に伝える姿が見られた。溶けきったタライの中を見ると、「水」と話す子の姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

水の音や感触、温度感等、日常生活の中で関わりの深い水の音や感触について、子ども達の興味関心が保育士が思っていたより深くあることが分かった。水音に耳を傾けて子ども達の言葉で「パシャパシャ・バンバン」と様々な表現をしていた。また温かさや冷たさにも興味を持つ姿も見られ、足が冷たくなったら温かい方に行ったりと、子ども達同士で自発的に動き、感触を楽しむ姿がたくさん見られ、保育士の声掛けや環境設定次第で子ども達の水への関心をもっと深まると思った。今後も子ども達の自発的な動きや言葉に耳を傾けながらさまざまな体験を保育に取り入れていきたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	保育園夢未来錦糸町園
施設所在地	東京都墨田区太平3-3-12 アドバンス喜月ビル1階
法人名	株式会社 我喜大笑

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触遊び

<テーマの設定理由>

様々な感触とそれを表す言葉があることを知り、身近な物の手触りへの興味を持ってもらいたいと考えた為。

2. 活動スケジュール

- ① 7月30日 感触の違いとそれを表す言葉があることを知る。
- ② 8月22日 様々な感触の物に触れる。
- ③ 9月2日 身近なところで様々な感触を探す。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 感触を確かめられる絵本
- ・ 綿・食塩・ザラメ・ゼラチン・チャック付き袋等
- ・ 幼児クラスの部屋を広く使って感触を探す。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ① 感触についての絵本を触ってどんな感じがしたか確かめる。
- ② 実際に感触の違う物に触れてみる。
- ③ いつもの部屋の中に、今までで知った感触があるか探す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

①絵本の中では知っている動物や色について答える子が多かったが、何人かの子からは「ふわふわ」「ざらざら」等の声上がり、それによって「ふわふわ」と口にする子も増えた。また、「ぷやぷや」等、普段大人が使う言葉とは違う独特な言い方で感触を表す子もいた。



②子ども達から聞こえた「ふわふわ」「ざらざら」等の感触を味わえそうな物を用意し、実際に触った。活動にあまり乗り気でなかった子も、他の子が楽しそうに触っている姿を見て、積極的に参加しようとしていた。言葉がよく出ている子からは「〇〇みたい」と実際の物の名前も聞こえてきた。活動が終わったあとも、チャック付きの袋に入れ、何度も感触を楽しんでいた。



③「ふわふわ」「ざらざら」「つるつる」を覚えているうちに、普段過ごす環境の中にその言葉と同じ物があるかを探して遊んだ。友だちと一緒に探して回るのが楽しかったようで、みんなが笑顔で参加していた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

言葉に興味が出てくる時期で、色や形についての発語は普段の保育の中で見られる中、感触についてはどこまで言葉と繋がられるかを確認してみたところ、それぞれの子が自分の表現できる言葉の中で一生懸命に口に出そうとしたり、友だちの言葉を聞いて真似するようになったりと、触る→言葉に出すということによる成長が見られたように思う。少し難しそうなテーマでも、取り組んでみることで少しずつでも得られる物があると分かった。また、友だちと一緒に取り組むことに積極的な子が多く、全員で楽しむことができよかった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	保育園夢未来錦糸町園
施設所在地	東京都墨田区太平3-3-12 アドバンス喜月ビル1階
法人名	株式会社 我喜大笑

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

子ども達が戸外で影踏み遊びをしたり、室内でライト越しに映る影で遊んだりする姿が見られ、興味を持っている様子だったので、光と影についての興味関心を深めるために設定した。

2. 活動スケジュール

- ①7月18日 水に反射して映る光に関心を持つ。
- ②2月19日 暗い中で光を当てると影はどのように映るのか予想してみる。
- ③3月11日 光の色が変わるとどのように見えるのか考える。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・手鏡・虫眼鏡
- ・LEDライト・ブラックライト
- ・ブラックパネル・ブラックパネルシアター

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①光が何かに当たって反射するところを見える。
- ②影ができる時、光はどうなっているか予想する。
- ③光の色が変わるとどうなるか考える。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

①保育士が持っていた鏡に興味津々の子ども達。保育士が鏡を使って光を反射させ、様々なところに光を出現させると「鏡で反射しているんだよ！」という声が聞こえた。その中で天井にゆらゆら揺れる光を発見して、「水が反射している！」といった言葉を受けて「何が反射しているんだろ

う？」と保育士が質問を投げかけると光の場所を探そうとする姿が見られた。少しすると「太陽の光じゃない？」と光の場所を発見していた。



②影ができた時の光の場所や向きをいくつか見せた上で、光の位置や影の場所を考えてみた。

「光の前にいたら影ができた」「光が動いたら影も動いた！」など様々な発見を言葉にしている子がいた。好きなポーズで壁の前に立ち、自分の影を見ながら“光が上から当たると影はどうなるかな”などクイズのようにしながら考えると「光と影が逆になっている！」と光が当たる側と反対側に影が

できることを発見し、身長が伸びたり、縮んだりする事を楽しんでいた。



③最初にブラックライトをつけると紫色の光が天井に映り、子ども達は不思議そうに見つめていた。今までの白い光と紫の光の違いを考えるためブラックパネルシアターを見た。「光っている！」「すごい！」と大喜びだった。自分たちの服にも紫の光に当ててみると光る部分を見つけ「なんで？」と疑問を感じながら観察していた。パネルシアターのお化けたちを

実際に手に取り、違う部分を考えて首を傾げていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今まで光と影を意識して考える機会がなかったが、この活動を通して、床に映る光を見つけて「この光はどこから来ているんだ？」「これは何の影だろう？」などと周りを見渡したり、探したりする姿が見られるようになった。また、影踏みなどの遊びでも、影を踏まれない為にどうするかなどを多角的に考えようとする姿が見られるようになり、子ども達から生まれた疑問を深く探求していく面白さを感じることができた。これで終わりにするのではなく、子ども達の気づきの言葉に耳を傾け、一緒に調べたり考えたりしていく時間を大切にしていきたい。